

2010年3月20日

中国山東省で電気自動車をつくるオジサン……尾園次郎

電気自動車が環境の中心的話題になってきている。充電ステーション、バッテリーステーションの充実などインフラ整備も急ピッチである。遠くない日に町の風景は一変するであろう。林立するガソリンスタンドが都会から無くなる。大型のバスやトラックはディーゼル車が残るが、ひょっとしたら燃料電池車になる。町も静かになる。空気もきれいになる。安全の面で擬似音を出す電気自動車がうろろうろすることになるだろうが、擬似自動車音では興ざめする。「のだめカンタービレ……ベートゥベンの交響曲第7番」などか何かセンスの良い擬音がよいであろう。音楽の街を謳っている市町村もあるのでぴったりである。想像するだにワクワクするではないか。今から規制がコッテリと出されるであろうが、想像されるような町の豊かさ、自由度が損なわれないように考えて欲しいものである。

昨年のNHKスペシャルで電気自動車がテーマとなっており、特に山東省の田舎の鍛冶屋風の町工場のオジサンが、モータと蓄電池とタイヤを買って来て電気自動車を作っているのが印象に残る。そのころは月産10台規模で製造していて、今では千台規模との話を聞く。そこには電気自動車作りの規制、基準が何も無いので、オジサンは自由に発想して物作りに専念出来る。電気自動車を見に来る、買いに来る人も自動車の免許が無くても乗れるので、オジサンにいろいろ注文をつけ、どんどん良い車(もはや先進国の自動車という固定概念から飛躍しているかもしれない)になって行く。この地域では100kmの早さの車は必要ない。エアコンも、ステレオも要らない。「楽に自分の行きたいところへ行ける道具」である。将来この地区にあった「道具」がどのようなようになるか楽しみでもある。

規制がなくなる(減ると)と人はどれだけ発想が豊かになるのであろうか。思い出すのは昭和50年頃のISO9001(品質マネジメントシステム)日本上陸の頃である。ISO(国際標準化機構)の認証を取得していないと一人前の工場と認めてもらえなかったし、輸出することも出来なかった。たしかにPDCA(プラン・ドゥ・チェック・アクション/計画・実行・評価・改善)のサイクルを回すなど、素晴らしくシステムティックな規格である。設計ではいろいろなチェックの関所があり、設計者はミスを会議(デザインレビュー)で指摘されるので、品質の良い製品を世に送り出すことが出来る。反面、設計者は設計がどの基準に基づいているか、設計根拠はなにか、規格に合っているかなどの会議準備に忙殺されてしまう。より良い設計をする時間がなくなり、発想も乏しくなる。山東省のオジサンがうらやましい。諸先輩がいろいろ大きな問題を起こしたので、法律、規制、基準が厳しくなってきたのは確かである(ここは先人としてはお詫びするしかない)。

これからの再生可能エネルギー利用は、地域固有の発展をしていくであろうし、生活スタイルも低炭素化社会志向となる。すなわち山東省のオジサンスタイルで、規制、基準、固定概念に捉われず、豊かな発想をしてどんどん地域にあった再生可能エネルギー利用、環境

製品・システムを進めていくこととなる。再生可能エネルギーを掲げてるNPOの活動の基軸はまさにここにある。

2010年3月14日

21世紀の環境リスクマネジメント

『21世紀の環境リスクマネジメント』を出版したのが2008年12月でしたが、約1年3カ月で200部を販売することが出来ました。当初は執筆者の自己資金で印刷代を負担しておりましたが、これも回収し返却する目途が経ち、売上の一部をREPAへ寄付することも出来そうです。残部些少ですので希望者は、篠田、尾園へご連絡ください。

2010年3月7日

省エネ・創エネ次世代モデルづくり普及のための連続セミナー

『東京都平成21年度提案公募型産業交流促進事業』補助金交付事業省エネ・創エネ次世代モデルづくり第4回セミナー「これからはゼロエネルギー住宅とグリーンビルディング」で当協会理事木村秀文氏が、約100名近くの聴衆を前に「環境ビジネスへの金融サポート」と題して講演しました。講演内容詳細は別途紹介する予定です。



東京ビッグサイトが熱気

世界29カ国1261社が参加して太陽光(PV EXPO)、燃料電池(FC EXPO)、二次電池(バッテリージャパン)の展示会が、3月3日から5日まで東京ビッグサイトで盛大に開催されました。そのひとつのPV EXPOは太陽光発電業界アジア最大の国際展示会として、世界各国の太陽電池メーカー、太陽光発電システムメーカー、建設・住宅メーカー、環境・エネルギー関連企業に加え、素材、製造装置、部品、検査測定装置などの周辺企業も出展され

層の厚さが感じられました。その中で S 社が変換効率 35.8%の太陽光セルをサンプル展示していたのには目を見張りました。当協会としても、富士山を頂点として裾野にまで目を向け、これら動向に注目して行きたいと思います。

